

【2年数理科学コース】初開催！三重県保健環境研究所 訪問 ～教科書を超えて広がる学びの未来と「地域を支える知」～

8月5日(水)、2年生の数理科学コースを13名が、三重県保健環境研究所への見学訪問を行いました。南高として、初めての取組です。

普段の学校生活では触れることのできない最先端の検査機器や、県民の安全・安心を水面下で支えていただいている研究の現場を体感し、学問が社会にどう直結しているかを深く学ぶ貴重な機会となりました。

■ 最新機器と現場の熱気に触れる体験

概要説明に始まり、衛生課、環境課、そして三重県感染症情報センターの見学・説明と、盛りだくさんのプログラムをご用意いただきました。

DNA解析装置や有害物質を計量する精密機械など、最先端のデジタル化・自動化が進む現場に南高生たちは興味津々。

それと同時に、いくら機械化が進んでも「最終的な判断や責任、人の気持に寄り添うアプローチは人間にしかできない」という研究員の方々の強い責任感にも深い感銘を受けていました。

また、現場では薬剤師や臨床検査技師など多様な専門資格を持つ方々が活躍されており、「病院や薬局、企業以外にも、地域社会に貢献するこんな魅力的なキャリアがあるんだ！」と、進路に対する視野が大きく広がるきっかけとなりました。



■ 南高生の学びと気づき(事後アンケートより抜粋)

訪問・見学後のアンケートでは、授業の学びとリアルな仕事がつながった感動や、今後の学習へのモチベーションが高まった声が多数寄せられました。

【授業と社会の繋がりを実感！】

・「生物で学んだ DNA の塩基配列を一度に何百万も解析する機械を見て、授業の学びがそのまま社会を支えていることに驚いた。」(化学・生物系志望)

・「化学の授業で聞いた元素や器具の名前が多く登場し、今勉強していることが将来の仕事に直結することを実感。苦手教科も逃げずにコツコツ頑張りたい。」(工学系志望)

【進路とキャリアの新たな視点】

- ・「薬剤師や獣医師の資格＝病院や手当というイメージだったが、データをまとめ地域の安全・安心を支える働き方もあると知り、選択肢が広がった。」(医・看・リハ系志望)
- ・「普段何気なく過ごしている生活の裏で、正確な検査で県民を守る仕事があることに心が動いた。」(医・看・リハ系志望)

【これからの学びへの決意】

- ・「人間だからこそできる『相手の気持を考えること』や『自発的な行動』を大切に、高校生活の行事や経験を積極的に積んでいきたい。」(教育系志望)

■ お礼

温かい笑顔と丁寧なご説明、そして充実した資料で温かく迎えてくださった所長の水野正宏様をはじめ、研究所の皆様にご心より感謝申し上げます。

「来年もぜひ来てください」とのお言葉をいただき、南高生たちの探究心と将来の可能性をひらく取組として、今後も継続していきたいと考えております。

今回の学びを糧に、参加の南高生たちが、学びを深め、将来の夢を育んでいってくださいよう、期待しています。